※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０４

令和８年度　学ビジネス科

教科	学ビジネス	科目	（学）ビジネス数学	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	2028 年度版　文系学生のための SPI３完全攻略問題集（高橋書店）、独自教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、企業の採用試験において使用される SPI 検査の「非言語分野」についての学習を中心に行います。
・日常生活で利用される様々な計算について復習を行い、計算能力の向上をめざします。
問題をくり返し解くことで、学習内容の定着をめざしましょう。
・１回１回の授業を大切にしましょう。
授業のポイントや気づいたことなどを自分なりにまとめていきましょう。「自分なりにまとめられているか」といった点も評価の対象です。また、日々の授業での取り組む姿勢も評価の対象となります。
・適宜テストを行います。
学習内容の区切りごとに、定期テストや単元テストを行います。テストの点数は評価の対象です。また、テストの結果を振り返り、「自身の課題を見つけることができているか」、「今後の学習方法を検討できているか」といった点も評価の対象です。

2　学習の到達目標

(1)基本的な計算方法を身につけるとともに、様々な事象を数学的に処理できるようにする。
(2)様々な事象を数学的に解釈し、数式で表現する力、順序関係や正誤判断において条件を整理し、適切にまとめることができる力を養う。
(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、数学的根拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・基本的な計算方法を身につけている。 ・様々な事象を数学的に処理することができる。	・様々な事象を数学的に解釈し、数式で表現する力を身につけている。 ・順序関係や正誤判断において条件を整理し、適切にまとめることができる力を身につけている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。 ・数学的根拠に基づいて判断しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
半期	四則計算	・正負の計算 ・分数、小数の計算 ・四則の混合計算	a:正の数と負の数の四則計算をすることができる。 四則の混合した計算をすることができる。 分数や小数を含む四則計算をすることができる。 b:日常生活などの具体的な場面で正負の性質、数の性質を活用することができる。 c:日常生活などの具体的な場面で正負の性質、数の性質を活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	割合・比	・比例式 ・割合の計算	a:２つの数について、割合を比で表すことができる。 比例式を解くことができる。 割合の計算をすることができる。 b:日常生活などの具体的な場面で比の性質、割合の性質を活用することができる。 c:日常生活などの具体的な場面で比の性質、割合の性質を活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	料金について	・料金の割引 ・料金の清算 ・料金の分割払い	a:割引の計算をすることができる。 割引率などを用いて清算する金額を求めることができる。 分割払いについての計算をすることができる。 b:日常生活などの具体的な場面で料金の割引、清算、分割払いを活用することができる。 c:日常生活などの具体的な場面で料金の割引、清算、分割払いを活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	損益算	・原価の計算 ・利益について	a:原価と定価の関係について理解している。 原価を求めることができる。 定価や利益の見込みを求めることができる。 b:日常生活などの具体的な場面で損益を活用することができる。 c:日常生活などの具体的な場面で損益を活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	鶴亀算	・鶴亀算	a:２つの物の関係性から２数を求めることができる。 連立二元一次方程式を解くことができる。 b:鶴亀算の性質を具体的な場面で活用することができる。 c:鶴亀算の性質を具体的な場面で活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題

※令和４年度以降入学生用

	速さ・距離・時間	・速さ ・距離 ・時間	a:速さ、距離、時間を求めることができる。 時間や距離の単位の相互関係を理解している。 b:日常生活などの具体的な場面で、速さ、距離、時間を活用することができる。 c:日常生活などの具体的な場面で、速さ、距離、時間を活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	流水算・旅人算	・流水算 ・旅人算	a:時間と川の流速の関係性について理解している。 ２つの数量の動き方による関係性について理解している。 条件より速さや時間を求めることができる。 b:流水算、旅人算の性質を具体的な場面で活用することができる。 c:流水算、旅人算の性質を具体的な場面で活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	植木算・仕事算	・植木算 ・仕事算	a:植木算について理解している。 仕事算について理解している。 b:植木算、仕事算の性質を具体的な場面で活用することができる。 c:植木算、仕事算の性質を具体的な場面で活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	食塩水の濃度	・食塩水の濃度の計算 ・食塩の重さの計算	a:食塩水の濃度や食塩の重さを求めることができる。 b:日常生活などの具体的な場面で食塩水の濃度や重さを求める知識を活用することができる。 c:日常生活などの具体的な場面で食塩水の濃度や重さを求める知識を活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	通過算	・通過算	a:時間や距離の単位の相互関係を理解している。 通過時間から物の長さや速さを求めることができる。 b:通過算の知識を具体的な場面で活用することができる。 c:通過算の知識を具体的な場面で活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	年齢算・時計算	・年齢算 ・時計算	a:年齢算の基本的な内容を理解している。 時計算の基本的な内容を理解している。 b:年齢算や時計算の知識を具体的な場面で活用することができる。 c:年齢算や時計算の知識を具体的な場面で活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	場合の数	・樹形図 ・順列 ・組合せ	a:樹形図を書くことができる。 順列や組合せを用いて場合の数を求めることができる。 b:場合の数を具体的な場面で活用することができる。 c:場合の数を具体的な場面で活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題

※令和４年度以降入学生用

	確率	・確率	a:基本的な事象の確率を求めることができる。 b:確率の知識を具体的な場面で活用することができる。 c:確率の知識を具体的な場面で活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	集合	・ベン図 ・マトリックス表	a:ベン図を書くことができる。 マトリックス表から、数を求めることができる。 b:ベン図やマトリックス表を具体的な場面で活用することができる。 c:ベン図やマトリックス表を具体的な場面で活用しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	推論	・表の作成 ・条件整理	a:推論に必要な基礎知識を理解している。 文章を読み取り、条件を整理することができる。 条件をもとに表へ必要な情報をまとめることができる。 b:日常生活などの具体的な場面で推論の知識を活用し、考察することができる。 c:日常生活などの具体的な場面で推論の知識を活用し、考察しようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	数表の読み取り	・数表の読み取り方	a:数表から必要な情報を読み取ることができる。 b:日常生活などの具体的な場面で、数表の知識を活用し、問題解決をすることができる。 c:日常生活などの具体的な場面で、数表の知識を活用し、問題解決をしようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題
	図表の読み取り	・様々なグラフ ・図表の読み取り方	a:様々なグラフに関する知識を理解している。 図表から必要な情報を読み取ることができる。 b:日常生活などの具体的な場面で、図表の知識を活用し、問題解決をすることができる。 c:日常生活などの具体的な場面で、図表の知識を活用し、問題解決をしようとしている。	課題 テスト	課題 テスト	提出課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度